

# ビワ生育情報

千葉県  
平成23年3月号

## 平成23年2月の気象

平成23年2月の半旬別の気象は表1に示した。平均気温は第1及び第3半旬を除く4半旬で平年を上回った。月平均気温は7.6℃で、平年及び前年より1.1℃高かった。

氷点下日数は第1、第3及び第4半旬でみられた。月合計は5日で、平年及び前年より4日少なかった。

最低極温は第2、第5及び第6半旬を除く3半旬で平年を下回った。2月1日には-3.4℃を記録した。幼果が寒害を受ける-3℃以下を記録した日数は1日（1月と合わせて5日）あった。

降水量は第1及び第5半旬を除く4半旬で平年を上回った。月合計は138mmで平年より50mm(57%)多く、前年より26mm(16%)少なかった。

日照時間は第1及び第5半旬を除く4半旬で平年を下回った。月合計は121時間で、平年の30時間(20%)少なく、前年より10時間(9%)多かった。

表1 平成23年2月の気象（館山測候所）

半旬	気温(℃)			氷点下日数(日)			最低極温(℃)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	5.5	5.7	4.9	3	2.0	2	-3.4	-1.6	-0.8
2	7.6	6.0	8.2	0	1.8	3	1.7	-1.4	-1.4
3	4.3	6.4	3.6	1	1.8	2	-1.7	-1.5	-2.5
4	9.2	6.7	3.6	1	1.5	2	-1.2	-1.1	-0.7
5	9.8	6.9	9.3	0	1.2	0	0.7	-0.4	2.2
6	9.3	7.1	11.5	0	0.9	0	3.4	0.3	3.4
平均/計/最低値	7.6	6.5	6.5	5	9.2	9	-3.4	-3.2*	-2.5

※：過去37年間の最低極温の平均

表1 (つづき)

半旬	降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	1	11	16	37	29	19
2	26	12	0	14	28	32
3	18	15	53	17	27	6
4	47	19	4	10	26	18
5	11	19	2	30	26	31
6	36	11	90	15	16	5
合計	138	88	164	121	151	111

## 4月の作業（果実の発育は次ページ）

4月になると平均気温が一段と高くなって枝葉・根ともに伸長が盛んな時期になり、果実の肥大も急速に進む。3月に続き、摘果・袋掛けが重要な作業になる。

### 摘果・袋掛け

寒害を受けやすい園では、幼果の生死の判別がしやすくなったところから摘果を始める。果形が細長く、果皮に張りが無いものは被害果の可能性が高い。被害果の症状を見極めてから効率よく摘果作業を進める。

### がんしゅ病の予防

袋掛けが終了した後、収穫が始まるまでに千葉県農作物病害虫雑草防除指針に従って銅剤を予防散布する。幹や枝に薬液が十分にかかるようにする。

## 除 草

春草が繁茂する時期になるので、収穫が始まる前に除草をすませる。草生栽培園では、有機物を補給する意味で草を刈り取って樹冠の回りに敷くとよいが、労力の足りない場合は除草剤を利用する。

## 樹及び花房の発育

ビワの開花期は表2に示した。暖地園芸研究所の開花始期（1花房内の蕾の10%が開花）は、「楠」は11月7日で、平年より2日、前年より1日早かった。「大房」の開花始期は12月14日で、平年より19日、前年より24日遅かった。「田中」は11月19日で、平年より6日、前年より8日遅かった。

開花盛期（1花房内の蕾の50%が開花）は、「楠」は11月28日で、平年より1日早かったが、前年より5日遅かった。「大房」は12月30日で、平年より7日、前年より3日遅かった。「田中」は12月7日で、平年より1日早かったが、前年より8日遅かった。

開花終期（1花房内の蕾の90%が開花）は、「楠」は12月16日で、平年より15日、前年より2日早かった。「大房」は2月2日で、平年より1日遅く、前年より14日早かった。「田中」は12月25日で、平年より22日、前年より27日早かった。

本年産の特徴として、開花始期から開花終期までの期間は3品種共に平年より短かった。

なお、花房の出蕾は3品種共に平年より早かった。1月及び2月に数日寒波があり、幼果に凍害が見られるが、樹の生育は良好である。

表2 ビワの開花期（暖地園芸研究所）

品 種	開花始期(月.日)			開花盛期(月.日)			開花終期(月.日)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
楠	11. 7	11. 9	11. 8	11.28	11.29	11.23	12.16	12.31	12.18
大 房	12.14	11.25	11.20	12.30	12.23	12.27	2. 2	2. 1	2.16
田 中	11.19	11.13	11.11	12. 7	12. 8	11.29	12.25	1.16	1.21

平年：1982年～2009年の28年間の平均

3月3日時点のビワ幼果の生存率は表3に示した。樹冠外側の生存率は「楠」が68%、「大房」が86%、「田中」が88%であり、いずれの品種も平年よりやや高かった。樹冠内側の生存率は「楠」が75%、「大房」が93%、「田中」が90%であり、いずれの品種も平年及び前年より低かった。樹内外の平均生存率は「楠」が72%、「大房」が87%、「田中」が87%であり、いずれの品種も平年及び前年より低かった。

暖地園芸研究所では2月28日までに最低気温-3℃以下を記録した日が5日あったため寒害の被害がみられた。「楠」は平年よりやや被害が多いが、「大房」及び「田中」は開花始期が遅れたため、充実の早い幼果が少なく、日数の割に被害は少ないようである。

果房は充実していて樹の生育も順調である。本年の果樹カメムシ類の越冬量は、南房総市他県南地域で平年より少ないが、今後の発生予察情報を参考にする。また、カメムシの発生の多い園では、4月以降ビワ園への飛来に注意を要する。

表3 ビワ幼果の生存率（暖地園芸研究所）

品 種	樹冠の外側(%)			樹冠の内側(%)			内外の平均(%)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
楠	68	63	86	75	94	100	72	77	93
大 房	86	83	88	93	95	100	87	88	94
田 中	88	84	97	90	97	100	87	90	98

調査：2011年3月3日

平年：1998年～2010年の13年間の平均

【問い合わせ先：千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 果樹・環境研究室 電話0470-22-2961】  
※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生産技術に関する情報」でもご覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/nousui/nourinsuisan/nourinsuisan.html>